

## ふるさと再見 31

### トラツグミ

鷦<sup>ね</sup><sub>ト</sub>とは、得<sup>え</sup><sub>た</sub>い体の知<sup>し</sup><sub>む</sub>れない伝説上の妖怪のことです。頭は猿、胴体は猩<sup>エイ</sup>、尾は蛇<sup>ヘビ</sup>、手足は虎<sup>タヌキ</sup>という姿のようです。その声は不気味で、恐ろしげに鳴くといわれてきました。

実はこの声の主がトラツグミで、江戸時代に正体が分かつたようですが、この鳥は「ヒー、ヒヨー」と、ちょっと変わったさえずりをします。主に夜間や早朝に鳴きますが、雨が降りそうな薄暗い昼間でも鳴くことがあります。

全身トラに似た模様があることから、トラツグミと呼ばれています。おなかには、三ヶ月の形をした黒い斑点があります。雌も雄も同じ色をしています。

大きさはハトよりも小さいですが、普通のツグミより



▲土手の草むらで休むトラツグミ

(野沢 進之輔)

は一回り大きいです。

日本では全国の低山帯から一五〇〇m以上の亜高山帯の林に生息していますが、北方や高地、積雪の多い地方のものは、冬期暖かい地方に移動して過ごします。

諏訪地方では標高の高い山で繁殖し、冬は里や低い山を下りてきます。

食べ物は主にミミズや昆虫で、地上で探します。見つけたと体を低くして、すばやく走ることもあります。

以前は独特なこの鳥の声を時々聞きましたが、最近あまり耳にしなくなり、気になります。

繁殖が確認されました。今では子連れの家族をよく見かけます。竜神池や蓼科湖

6年前の夏、初めて

6年後には、たまたま

湖沼、河川、水田などに生息しています。オオバン

## ふるさと再見 32

### オオバン

(大鰐)のパンは「水田地帯にて、水田の番をしている」からきているそうです。

諏訪地方では、こ

こ10年で急激に増えた鳥です。以前は春か秋に稀に飛来する

程度でしたが、やがて一年中生息するよ

うになり、とうとう

6年前の夏、初めて

繁殖が確認されました。今

では子連れの家族をよく見

かけます。竜神池や蓼科湖

環境の変化に対応し、生息

場所を代えて、命をつなげ

る苦みがなされていることを

教えてくれています。

なかつたりして居着きはじめ

め、やがて通年滞在に広が

つたのではないかと、私は

考えています。

ユーラシア大陸、オース

トラリア大陸など世界に広

く分布しています。日本で

は、多くは本州中部以北で

繁殖しますが、九州などで

も繁殖の記録があります。



▲白いくちばしが目立つオオバン

(野沢 進之輔)

### RAN

ほかの種に作るのでそつとしておく」と話してくれました。

食べ物は、水草、水辺の昆虫、ミミズなどです。

「クルルツ」と鋭く鳴きますが、たまたま「キユルルツ」とも鳴きます。

足にはビレ状の水かきは付いていませんが、水面を速く泳げます。体の割には

長く伸びた足の指は、水面に浮いている水草の上を歩くのに都合よくできています。

水辺の岸は、いろいろな水草が生い茂る環境に配慮したいものです。

名前のパン(鶴)は「水田

付近にいて、田の番をしているようだ」からきて

います。

果はマコモやヨシなどの根元や、水草を積みあげた上に、皿状につくります。

8月に、よく生育した稲の根元を押し広げてつづった果をみたことがあります。水田の所有者は、「毎年つくるけど、また



▲水草の上を歩くパン

(野沢 進之輔)

## ふるさと再見 34

### ヤマドリ

よく似たところがある

ヤマドリもキジも

は比較的よく見かけますが、  
ヤマドリは見る機会が少ない鳥です。

食べ物は、主に植物質で

葉、茎、種子などですが、

動物質の昆虫、クモ、ムカデなどもたべるようです。

ヤマドリは「グル、グル」など低い声で鳴きますが、

相手に存在を知らせるため

に、翼で空気をたたくよう

にして、「ドドドド」という音を出します。これを「ぼろを打つ」と言われてきました。（野沢 進之輔）

## ふるさと再見 35

### クロサギ

ある鳥好きの社長

さんが「アラジの写

真を玄関に飾りた

い」と言ったことが

ありました。黒字と

掛けた三葉の遊びで

すが、本当は「黒鶲」

と表します。

繁殖しますが、特に長野、新潟、群馬の界に集中しています。冬は本州西南の温かい地方に移動します。

夏は標高1500mまで

の山地の、木がよく茂ったやや暗い林にいます。ササ

が多い場所を好みます。巣

も水平になつたササの茎の上に作るようです。

地上で餌をとることが多

く、草の種子や昆虫を食べ

ます。ヒナにはチヨウやガ

の幼虫を与えます。

山地ではなかなか出合え

ませんが、移動中の春や秋

には、人家近くの林でも見

かけることがあります。

（野沢 進之輔）



▲長い尾をもつヤマドリの雄



▲名前のクロは雄の体の色からきている



▲ホオジロによく似ている雌

## ふるさと再見 36

### イワヒバリ

夏は岩場、お花畠、残雪

などで昆蟲を捕食し、冬は

草の種子を食べています。

声はよく通り「チュルリ

チュルリ」などと続けてさ

えります。

変わっているのは結婚形

態で、雄數羽と雌數羽が一

つの群れをつくり、協同で

子育てをします。ですから

多夫多妻で、雌はグループ

内すべての雄と交尾をしま

す。また、雄はグループ内

のいくつかの巣のヒナに餌

を与えたりもします。

（野沢 進之輔）

繁殖しますが、特に長野、新潟、群馬の界に集中しています。冬は標高1500mまで

の山地の、木がよく茂ったやや暗い林にいます。ササ

が多い場所を好みます。巣

も水平になつたササの茎の上に作るようです。

地上で餌をとることが多

く、草の種子や昆虫を食べ

ます。ヒナにはチヨウやガ

の幼虫を与えます。

山地ではなかなか出合え

ませんが、移動中の春や秋

には、人家近くの林でも見

かけることがあります。

（野沢 進之輔）



▲地上の一一番高い場所に住むイワヒバリ

## ふるさと再見 37

### カイツブリ

カモの仲間と一緒にいる。カモの赤ちゃんと間違えるほど小さな水鳥です。

カモの仲間ではなく、日本に5種類いるカイツブリ科の一種です。

小さくても「キユルルル」と、雄も雌も連続して大きな鳴き声で鳴きます。

暖かい地方では一年中ほ

ぼ同じ場所にいますが、諦

張るため、暖地に移動

します。

生息場所は、竜神池、御射鹿池、蓼科湖などの池や、流れが緩やかな河川です。

潜水得意で、水深5m、時間で30秒位は、潜ることができます。

潜って、小さな魚類や水生昆虫、軟体動物などを捕らえて食べます。

巣は水面に水草の茎や葉で、浮巢を作ります。水面に出ている部



▲丸みを帯びてぬいぐるみのようなカイツブリ

分は皿状ですが、水面下にはその5倍の厚さがあります。ヨシやマコモに巣の一部を固定し、流れていかないようにできています。

雄も雌も抱卵しますが、

巣から離れる時は、卵が見

つからないように卵の上へ

水草を被せます。

ヒナは卵からかえるとす

ぐに泳ぐことができますが、泳ぎ疲れると、水上の上で

観鳥の背中に乗ったり、羽

根の中に入つたりして休み

ます。

（野沢 進之輔）

## ふるさと再見 38

### ルリビタキ

昔は緑色系統をアオとかアオ・グラとかアオバトとかアオが付くのに、実際の体の色は緑か黄緑です。

鳥の名で、アオジ

と/or/アオ・グラとかア

シア大陸の高緯度地方で夏

繁殖し、冬は東南アジアな

ど暖かい地方で冬越しをし

ます。

夏の繁殖期には「ヒッピ

ヨロヒヨロヒヨロリ」と鎗

を鳴らしたようにさえす

ります。冬は「ヒッヒッヒッ

ヒタキに似た声を

出します。

食べ物は昆蟲が主ですが、

秋や冬には小さな木の実も

食べます。食べる時は虫も

実も飛びついで捕られます。

ヒタキ特有の大きな目を

して、かわいらしい鳥

です。

（野沢 進之輔）



▲夏、針葉樹に止まるルリビタキの雄

## ふるさと再見 39

### アトリ

日本に多いようです。平地から山地の林、農耕地、水田、草地などで過ごします。

冬は「チイーチイー」とか

「キヨツ、キヨツ」と鳴き

ます。

アトリは、とても

もなく大きな群れを

形成することで有名

で、時には数十万羽

になることもあります。

4年前の岐阜県郡上郡では、50万羽

とも80万羽とも言わ

れる群れが飛来し、昼間で

も空が暗くなるほどだった

ようです。

アトリは、全体に灰褐色で、尾は青色

です。雄も雌も脇(翼の下)

が橙色です。体の大きさはスズメよりやや小さい鳥で

す。

諦訪地方では夏、八ヶ岳

など標高1,500m以上の亜高

山針葉樹林で生

活し、繁殖しま

す。薄暗い林の

茂みを好みます。

冬は低地に下りてきて単独で

生活しています。

林の縁や雜木林や公園などで

日本へは秋、冬鳥として全

国各地に飛来しますが、西



▲春先、夏羽根に変化したアトリの雄

## ふるさと再見④

### ホシハジロ

カモのなかまは、大きく2通りに分けられます。

一つは水の中に潜れないで、体半分だけ水中に入れ、逆立ちして餌を捕る

グループです。これらは淡水ガモ類と呼ばれています。カルガモやマガモがこれに属します。

もう一つは、水中に全体がすっかり潜ることができるタイプです。これらを海ガモ類と云います。今回のホシハジロがこれに属します。

星羽白のホシは、背や腹の細かい横斑模様のことを言っています。ハジロは翼の一部が白いことからきています。（野沢 進之輔）



▲ホシハジロの雄(左)と雌(右)

好み、湖や池や大きな川などに生息しています。  
食べ物は、雑食で、植物質の草や水草や、動物質の魚や両生類や昆虫などです。

雄の体の色は茶、黒、白と3色です。雄の目の色はルビーのような赤色ですが、雌は黒です。

好み、湖や池や大きな川などに生息しています。  
食べ物は、雑食で、植物質の草や水草や、動物質の魚や両生類や昆虫などです。

雄の体の色は茶、黒、白と3色です。雄の目の色はルビーのような赤色ですが、雌は黒です。

雄の体の色は茶、黒、白と3色です。雄の目の色はルビーのような赤色ですが、雌は黒です。

## ふるさと再見⑤

### キンクロハジロ

前回、カモの仲間は淡水ガモと海水ガモに区分されると紹介しましたが、今回

のキンクロハジロは後者に属します。

水中を自由に潜れるわけは、脚が体

の後ろの方についているか

らです。このため地上を歩くのは、得意ではありません。

水面から飛び立つ時は、

水を蹴って助走をつけます。

（野沢 進之輔）



▲黄色い目が目立つキンクロハジロの雄

海水より淡水が好きで、湖や池や上川などにいます。  
茅野市の蓼科湖や竜神池でも、結冰期以外はときどき見かけます。

繁殖地はユーラシア大陸の北部に広く分布していて、冬はアジア・ヨーロッパ・アフリカの南の方で過ごします。

夏はユーラシア大陸と北アメリカの大陵の中・北部に広く分布していく、冬は同大陸の南部に渡ります。日本へは冬鳥として秋に渡ってきます。ごく少数、北海道や北日本の高

地に夏も残って繁殖するものもいます。

海水より淡水を好み、河

川や湖沼などで生活してい

ます。ほかのカモが集まる

脳やかな所を避け、その

周辺や、草が茂っているよ

うなひつそりとした場所で

多く見かけます。

（野沢 進之輔）

## ふるさと再見⑥

### コガモ

コガモ(小鴨)は名前通り、カモの仲間ではぐんと小さく

最小です。写真は雄ですが、雌は顔も含めて、全体に褐色で

ます。

鳥の世界では、全般に結婚相手を決めるのは雌です。春、北国へ帰る前に繁殖相手を決めないとあぶれてしまうので雄は必死です。

（野沢 進之輔）

守るため、夜間に餌をとることが多いようです。  
他のカモと同様、冬は恋の季節です。雄數羽が雌一羽に対して周りを泳いだり、首を伸ばしたり、縮めたり、尾を持ち上げたり、盛んにアピールするダンスをします。

夏はユーラシア大陸と北アメリカの大陵の中・北部に広く分布していく、冬は同大陸の南部に渡ります。日本へは冬鳥として秋に渡ってきます。ごく少数、北海道や北日本の高

地に夏も残って繁殖するものもいます。

海水より淡水を好み、河川や湖沼などで生活しています。ほかのカモが集まる脳やかな所を避け、その周辺や、草が茂っているようなひつそりとした場所で多く見かけます。

（野沢 進之輔）



▲カモ類最小のコガモの雄

## ふるさと再見④

トビ

トビは「とんび」とも呼ばれよく知られた身近な鳥です。昔から童謡にも歌われ、鳴き声の「ヒヨロロ」もおなじみです。茶褐色を鳥色といいますが、この鳥の体の色から来ています。



▲ワラ束の上に止まったトビ

パンや残飯などの穀類も食べたり、まさに雑食に近い食生活です。

人の営みを利用して、大きなゴミ捨て場があるとよく集まります。

トビの語源は「とおくひ」(遠くへ高く飛ぶの意味)が変化したようです。

トビははたかずに、うまく上昇気流に乗つて円を描いて高く飛んでいる姿をよく見かけます。60m上空からでも獲物を見つけられるほど、目がとても良いようです。(野沢 進之輔)

トビは「とんび」とも呼ばれ、身近な鳥です。昔から童謡にも歌われ、鳴き声の「ヒヨロロ」もおなじみです。茶褐色を鳥色といいますが、この鳥の体の色から来ています。

市街地や、農耕地、河川、湖沼の周辺、山地の林、時々高山まで、様々な環境で生活している鳥です。

ユーラシア大陸、アフリカ大陸など、世界

的に広く分布しています。日本では各地で一年中暮らしています。

食べ物は、タカの仲間としては珍しく、主に動物の死んだ肉を食べる所以、自然界的掃除屋さんの役目をしてくれています。ネズミ、カエル、ヘビ、小鳥、昆虫などの生きている小動物も捕食したり、

トビに少し似ています。トビよりやや小型で、全体に白っぽいのがノスリです。

そのほかトビと違う点は、翼の幅が広いこと、尾は短くて先が円くなっている

上を滑空している様子から野を探っているようだからという説があります。

世界的にはユーラシア大陸に広く分布しています。

この大陸の中央部で繁殖す

るのは、冬、アフリカ大陸の東側や南アジアに渡るものです。日本では全国に分布していて、一年中ほぼ同じ場所で暮らしています。

トビは「ヒーエー」と叫んでいます。鳴き声は「ヒーエー」と

よく見かけます。60m上空

からでも獲物を見つけられることなどです。また飛んでいるとき下から見ると、翼の角に黒い斑があります。

巣は平地から高山までの林の大木の枝に、枯れ枝を重ねて皿状を作ります。

食べ物はネズミ、カエル、ヘビ、小鳥などの動物質が主です。これらの餌は、開けた農耕地や河原や草原などを捕えます。

電柱や木に止まっていたり、空中で羽ばたいていたりして、獲物を見つけると急降下して捕えます。

ノスリの語源は

野原の

上を滑空している様子から野を探っているようだからという説があります。

世界的にはユーラシア大陸に広く分布しています。

この大陸の中央部で繁殖するものは、冬、アフリカ大陸の東側や南アジアに渡るものです。日本では全国に分布していて、一年中ほぼ同じ場所で暮らしています。

トビは「ヒーエー」と叫んでいます。鳴き声は「ヒーエー」と

よく見かけます。60m上空

からでも獲物を見つけられることなどです。また飛んでいるとき下から見ると、翼の角に黒い斑があります。

巣は平地から高山までの林の大木の枝に、枯れ枝を重ねて皿状を作ります。

食べ物はネズミ、カエル、ヘビ、小鳥などの動物質が主です。これらの餌は、開けた農耕地や河原や草原などを捕えます。

電柱や木に止まっていたり、空中で羽ばたいていたりして、獲物を見つけると急降下して捕えます。

ノスリの語源は野原の

## ふるさと再見⑤

オオルリ

姿も鳴き声も際立つて美しいのがこの鳥です。

雄は鮮やかな瑠璃色です。のどや顔、胸、脇は光線によつて黒っぽく見えます。雌は全体に茶褐色をしていて、

雄の方が早く日本に渡ってきてなわばりを作り、できたころ雌がやってきてペアになります。

巣は岩や土の堅い窪みに作りますが、家の軒先などにも作ります。

「幸せの青い鳥」を見つけに出かけませんか。

冬は、インドシナ半島やフィリピンなどで過ごし、夏は日本各地や朝鮮半島やウスリー沿海州周辺、中国東北部などで繁殖します。

世界的にみると限られた範囲にしかいません。

低山から亜高山の山地に生息しますが、特に溪流のあるよく茂った豊かな林に集中して

います。



▲水を飲みにきたオオルリの雄

## ふるさと再見④6 ヤブサメ

ヤブサメ

この鳥は「シシシシ」と虫のような細い声でさえります。

この声はかなり高音であるため、人によつては聞き取ることができません。

やぶさめ(流鏑鳥)で思いつくのは、走つている馬の上から弓を射る競技のことですが、名前の由来

と思つては、走つていて

小さい尾羽、大きな頭、長い

足、目を通つている黒い線

などが特徴です。体はとても

小さく、日本の鳥の中でも

小さい方から數えてベスト

3に入るくらいです。

私は何度か声は聞いてい

ましたが、姿を見たのは今

年5月が初めてでした。そ

のからいらしきにすっかり

虜になりました。



▲水浴びをするヤブサメ

## ふるさと再見④7 クロツグミ

クロツグミ

クロツグミは、「森の歌い手」と言われています。

この鳥のさえずりは、太くて張りがあり、遠くまでよく響きます。声は複雑で、

長く続きます。「キヨロイ、

キヨロイ、キソコキソコ、

コキーヨ」と一応声を表記

しましたが、もつとさまざま

な声をまねたりしま

します。

世界的に見ると、分

布は狭く、夏は中国中

部と日本の2箇所で繁

殖しています。冬は中

国南部やインドシナ半

島に渡ります。雄の春

の渡来は4月の初・中

旬とほかの夏鳥より早

いです。なわばりがで

きた頃、少し遅れて雌

が渡ってきます。



▲美しい声で鳴くクロツグミの雄

## ふるさと再見④8 コチドリ

コチドリ

チドリといえば、海辺を連想しますが、諏訪地方でも2種類

のチドリが繁殖して

います。一つは通年

住んでいるイカルチ

ドリで、もう一つは

夏だけ飛来してくるコチド

リです。2種ともよく似て

いますが、コチドリの方が

目の周りの黄色がはつきり

しています。

コチドリはユーラシア大

陸の中・低緯度に広く分布

し繁殖しています。冬はユ

ーラシア大陸の南部やアフ

リカに渡つて過ごします。

日本では4~5月にか

けて各地に渡ってきます。

主に内陸の河川敷、湖岸、

水田、埋め立て地、工事

現場、造成地などで生活

しています。小石や砂や

石がゴロゴロした荒れ地



▲巣だったヒナの世話をするコチドリ

## ふるさと再見 49

### マミチャジナイ

野鳥は大きく分け  
て、一年中ほぼ同じ  
場所に生息している  
ものと、季節によっ  
て住む場所を変える  
ものとがあります。

野鳥は大きく分け  
て、一年中ほぼ同じ  
場所に生息している  
ものと、季節によっ  
て住む場所を変える  
ものとがあります。  
春より秋の方  
が長く滞在し、  
かけます。



▲ズミの実を食べるマミチャジナイ

ミズキやズミやツルウメモ  
ドキなどの実をついばんだ  
り、地上で昆虫を捕らえて  
食べたりしています。

アカハラに似ていますが、  
目の上の白い眉の模様がは  
つきりしています。スズメ  
よりずっと大きな鳥です。

達子で「眉茶禍」と表し  
ますが、眉の目立つ茶色つ  
ぱい鶯の仲間という意味で  
しまうか。

秋が深まるごとにちょっと変  
わった名前のこの鳥に会う  
のを楽しみにしています。

(野沢 進之輔)

### ムギマキ

前回(49)は旅鳥の  
説明をしましたが、  
今回のムギマキも旅  
鳥です。

夏はロシアの東、  
バイカルやウスリー  
地方で繁殖し、冬は  
東南アジアに渡って  
過ごします。日本に立ち寄  
るのは、春が4~5月で、  
秋は9~10月頃です。秋の  
方が日本各地で多く見られ  
ます。

名前の「チ播き」は、秋  
の渡りの時、ちょうど麦を  
撒くところに現れることか  
らつけられました。



▲ムギマキの若い雄



▲クモを食べているムギマキの雌

渡る時は、単独か数羽の  
群れで移動します。

オスは胸から腹にかけてオ  
レンジ色をしていて、キビ  
タキという鳥に似ています。

夏はロシアの東、  
バイカルやウスリー  
地方で繁殖し、冬は  
東南アジアに渡って  
過ごします。日本に立ち寄  
るのは、春が4~5月で、  
秋は9~10月頃です。秋の  
方が日本各地で多く見られ  
ます。

名前の「チ播き」は、秋  
の渡りの時、ちょうど麦を  
撒くところに現れることか  
らつけられました。

(野沢 進之輔)

## ふるさと再見 50

### ベニヒワ

冬、日本で過ごす

渡り鳥には、毎年決  
まってやってくる種

類と、年によって差  
がり、来年年と來  
ない年がある種類が  
います。今回ベニ  
ヒワは後者です。渡  
訪地方では、数年に  
一度くらいしか観察例がな  
いようです。

世界的には、ユーラシア  
大陸の寒帯や亜寒帯の広い  
地域に分布しています。多  
くは冬、暖かい南に渡りま  
す。

(野沢 進之輔)

ハンノキ、カラマツ、シ  
ラカバなどの樹木の小さな  
種子や、シソ科、イネ科  
キク科などの植物の実を食  
べています。地上に雪が積  
もっている時は、もっぱら  
高い木についている種子に  
群がつて食べますが、雪が  
融けると地上に落ちた種子  
を主に食べます。

スズメよりずっと小さく、  
雄・雌とも頭の上が紅色で  
雄は胸から腹にかけて紅  
色をしている印象的なかわ  
いらしい鳥です。

(野沢 進之輔)

冬は、カラマツなどの明  
るい林や草原や農耕地など  
で暮らしています。諏訪地  
方では主に霧ヶ峰などで數  
年おきに見られるようです。  
マヒワと一緒に群れでい  
ることもありますが、10數  
羽から時には數百羽の群れ  
で行動しています。



▲胸・腹・頭上が紅色のベニヒワの雄

## ふるさと再見 52

### オナガガモ

冬は多くの種類のカモが諏訪地方にもやつて来ます。水辺に群がっている時はあまり動かないのですが、小鳥と一緒に見やすく、種名を知る良い機会です。

私は始め、カモは皆同じ様に見えていますが、慣れてくると、意外に多くの種類があることが分かり、うれしくなった記憶があります。

日本へは大量に飛来し、普通にどこでも見られるのが、オナガガモです。名前の通り、他のカモより尾が長いのが特徴です。

胸から頭の後ろにある白い線が目立ちます。また他のカモより首や胴体が長くなっています。

ユーラシア大陸や北アメリカ大陸の中・高緯度

の広い範囲で繁殖し、冬は両大陸の南や、アフリカ大陸・中央アメリカに渡ります。



▲オナガガモの雄

(野沢 進之輔)

どちらかといえば夜行性で、昼間は湖や池や川で休んでいて、夜間水田や小川などで餌を食べます。雑食性ですが、植物質を好みます。

全身水中に潜ることはできませんが、逆立ちして上半身だけ水中に入れ、水中の浅いところの堆積物も食べます。嘴を水につけ、グチャグチャと動かして餌を食べることもあります。

冬の間に結婚相手を決めるため、求愛のための動作や、雄同士の争いがよく見られます。

## ふるさと再見 53

### ミヤマホオジロ

大阪の人とバードウォッチングをした時、ミヤマホオジロに会いました。

「大阪ではこの島人気ありますよ。なぜって、阪神タイガースのカラー、黄色と黒が頭と顔にあるから」といったのをよく覚えています。

スズメ位の大きさです。11月頃日本にやって来て、翌年3月頃まで過ごします。

ユーラシア大陸東部と中国中部で繁殖し、冬は中国東部や日本に移動します。地

球上の限られた場所に生息しています。

国内では本州西南部や九州に多く渡つて来ます。低山帶の林や、林の縁、草地や農耕地などで生活します。

特に藪のあるところを好みます。「ミヤマ」についていますが、山奥ではありません。普通のホオジロに比べてやや山地に多い程度です。

ヨモギやエノコログサやハンノキなど、木や草の小さな種子を食べています。

冬は5羽から10羽くらいの小群で過ごします。雪の中などで出会うと、黄色がよく目立ち、うれしくなります。(野沢進之輔)



▲ミヤマホオジロの雄



▲ミヤマホオジロの雌、右はシジュウカラ

### カワウ

エビ・カニなどで、潜つて餌を捕られます。

## ふるさと再見 54

### カワウ

この鳥は15年前は、諏訪地方ではあまり見かけませんでしたが、今では諏訪湖を始め、上川や茅野市の山間地の池などで、普通に一年中見ることができます。

湖を始め、上川や茅野市や天竜川沿いに伊那谷方面からやってきました。

世界各地の広い範囲に分布していて、日本では本州各地で繁殖しています。

長良川の鵜飼で有名なウミミウとカワウは、海岸に對して、カワウがやつて来て繁殖を始める

と、自然のバランスが崩れはしないかと少し心配になります。(野沢 進之輔)

とか鳴きます。

諏訪地方に大量のカワウがやつて来て繁殖を始める

と、自然のバランスが崩れはしないかと少し心配になります。(野沢 進之輔)



▲婚姻色で顔周辺が白くなったカワウ

生息地はウミウが海岸に対し、カワウは内陸の湖沼、河川などです。カワウの食べ物は、魚類や

## ふるさと再見 55

### チヨウケンボウ

ワシやタカに近い  
ハヤブサの仲間で大  
きさはハト位です。  
尾が長いスマートな  
鳥です。頭にヒゲみ  
たいな黒い線がある  
のが特徴です。

おもしろい名前で  
すが、語源について  
はいろいろあります。その  
一つは、昔の方言でトンボ  
のことを「けんきんぼう」  
と言い、飛ぶ姿がトンボに  
似ているので「鳥ケンサン  
ボウ」が変化したと言うの  
です。ほかには「長元坊」  
というお坊さんが関係した  
言い伝えが三つほどあり、  
名の由来ははつきりしてい  
ません。



▲街中の建物に止まるチョウケンボウ

(野沢 進之輔)

そのため生息地もネズミが  
多くいて見つけやすい農耕  
地、草原、河原などで、低  
山帯から高山帯まで生息し  
ています。

餌を捕る時は、ホバリン  
グといつて空中で羽ばたい  
たまま停止していく餌を探  
し、見つけると急降下しま  
す。

本来の繁殖地は断崖の穴  
ですが、最近は市街地のビ  
ルの屋上や通気口などでも  
繁殖し話題になります。街  
中は天敵が少ないことや、  
捕まえやすい小鳥が多いこ  
となどから住み着いたよう  
です。鳥の暮らしにも変化  
している種もあります。

冬は群れで生活し、他の  
種類の小鳥といっしょに行  
動を共にすることもあります。

(野沢 進之輔)

## ふるさと再見 56

### シジュウカラ

今、この鳥が注目

されているのは、声  
です。この三、四月  
マスコミで多く報じ  
られました。さえず  
りの「ツビツビツビ」  
をはじめ地鳴きの  
「ジュクジュク」な  
ど十五種類くらいの

声を出しますが、この中か  
ら二つの声を組み合わせて  
発し、相手に伝えているこ  
とがわかったのです。これ  
は人間以外では初めての確  
認で、「文」を作る能力が  
あるのではと、研究が進ん  
でいるようです。

(野沢 進之輔)

胸や腹にかけて、ネクタ  
イのような黒い線がありま  
す。この線は雄は太く、雌  
は細く均等です。

餌は昆虫の幼虫・成虫、  
クモなどですが、冬などは  
植物の種子も食べます。

巣は木の穴や石垣の穴  
などです。伏せておいた植  
木鉢、郵便受けなども利用

します。

冬は群れで生活し、他の  
種類の小鳥といっしょに行  
動を共にすることもあります。

(野沢 進之輔)



▲黒いネクタイをしたシジュウカラの雌

## ふるさと再見 57

### ヒガラ

鳥の繁殖期に、主

に雄は求愛やなわば  
りの主張のために、  
普段と違う美しい声

で鳴きます。これを  
「さえずり」と呼んで  
います。

さえずりは、鳥によ  
つてみな違っています  
が、なかには、前回掲  
載したシジュウカラとヒガ  
ラのように、少し似ている  
種類もたまにあります。

(野沢 進之輔)

ました。約1000m以上  
の山に生息していて、冬で  
も、あまり下へは下りてい  
ません。

全長10.5～11cmで、スズメ  
よりずっと小さく、小さい  
方からのベスト5に入るく  
らいです。首から胸にかけ  
て黒いので、蝶ネクタイの  
鳥とも言っています。雌雄

同色です。

餌は主に昆虫やクモです  
が、針葉樹の種子も食べる  
ようです。茂った木の上の  
方の葉の先で、餌を探して  
います。巣は木の穴などを  
使います。(野沢 進之輔)



▲虫を探しているヒガラ

## ふるさと再見 58

### ホシガラス

この鳥はカラスの仲間ですが、黒くはなく、体中星のようない点々の模様があるので、ホシガラス（星鳥）と呼ばれています。体の大きさは、ハトぐらいで

主ですが、5～9月の間は、昆蟲やネズミ、カエルなどをたくさん食べるよです。

おもしろいのは、マツなどの実をのといっぱいに溜めて運び、それを岩かけや枯れ木に貯蔵し、冬に雪の下からほじくり出して食べます。食べ残した種子から発芽しますので、ハイマツにとっては、種子を広く蒔いてくれるありがたい相手です。動物物がいろいろなところで結びあって生きている一つの例です。

かつて豊平地区の道路に広く分布しています。日本でも、亜高山帯から高山の中央部の高山帯や亜寒帯に広く分布しています。日本

の中には、カツコウのように、鳴き声から名前が付いた鳥がありますが、この鳥もそうです。

鳥は木の上部の葉にいる昆虫です。木に止まつて、飛んできた虫に飛び付いたり、葉の裏にいる虫を捕えたりします。

巣は高い木の上の方に、お椀状につくります。巣の周りにコケを張り付けて、目立たぬようにします。巣はまるで木のこぶのよう見えます。（野沢 進之輔）



▲星のような模様のあるホシガラス

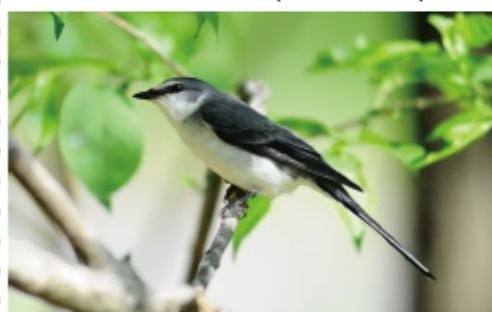
## ふるさと再見 59

### サンショウクイ

鳥の中には、カツコウのように、鳴き声から名前が付いた鳥もそうです。

鳥は木の上部の葉にいる昆虫です。木に止まつて、飛んできた虫に飛び付いたり、葉の裏にいる虫を捕えたりします。

巣は高い木の上の方に、お椀状につくります。巣の周りにコケを張り付けて、目立たぬようにします。巣はまるで木のこぶのよう見えます。（野沢 進之輔）



▲ほっそりとした体型のサンショウクイ

## ふるさと再見 60

### ノジコ

世界の中で、ノジコの繁殖地は、日本列島に限られています。さらに日本の中部でも、本州中部と北部だけが局地的です。

特に新潟県と長野県の県境の山地に多いです。が、全体としては数が少なく、準絶滅危惧種に指定されている貴重な鳥です。

冬は台湾、中国南部、フィリピンなどに渡って過ごします。一部本州西南部で越冬した記録があります。

日本での繁殖地は、山地の落葉広葉樹林が多く、二次林や、林縁、しめつけ、藪、沼筋などでも見られます。特にハンノキ林を好むようです。

ノジコは、近い種類のオジコに色などよく似ていますが、目の周りに白いアーリングがあるので



▲数が少なく貴重なノジコ